

長沼地区河川防災ステーション整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

ながぬまじょうあと

長沼城跡

発掘調査情報（Ⅰ）

（一財）長野県文化振興事業団 長野県埋蔵文化財センター



唐津焼 皿

【調査開始から2か月】

10月の調査開始から、2か月が経過しました。お陰さまで調査は順調に進んでいます。遺跡からは長沼城に
関係する堀跡などの痕跡や、当時のさまざまな生活道具が出土しています。



【南上空からみた長沼城跡】

令和3年9月29日に、調査前の状況をラジコンヘリコプターで空中から撮影しました。長沼城跡や城下町、北国脇街道などは千曲川によって形成された自然堤防上に立地しています。

【長沼城とは】

長沼城（所在地：長野市穂保）は、長野市北東部の千曲川沿いの平地に築造された平城です。

戦国時代（1550年ごろ）、善光寺平は南の甲斐武田氏と北の越後上杉氏が争う場となります。武田信玄が上杉謙信に対するため、海津城（松代城）とともに築城し重要な拠点となったのが長沼城です。武田勢や上杉勢がこの城に入って陣をはり、戦いに備えた改築工事や、兵火にあった記録も残っています。

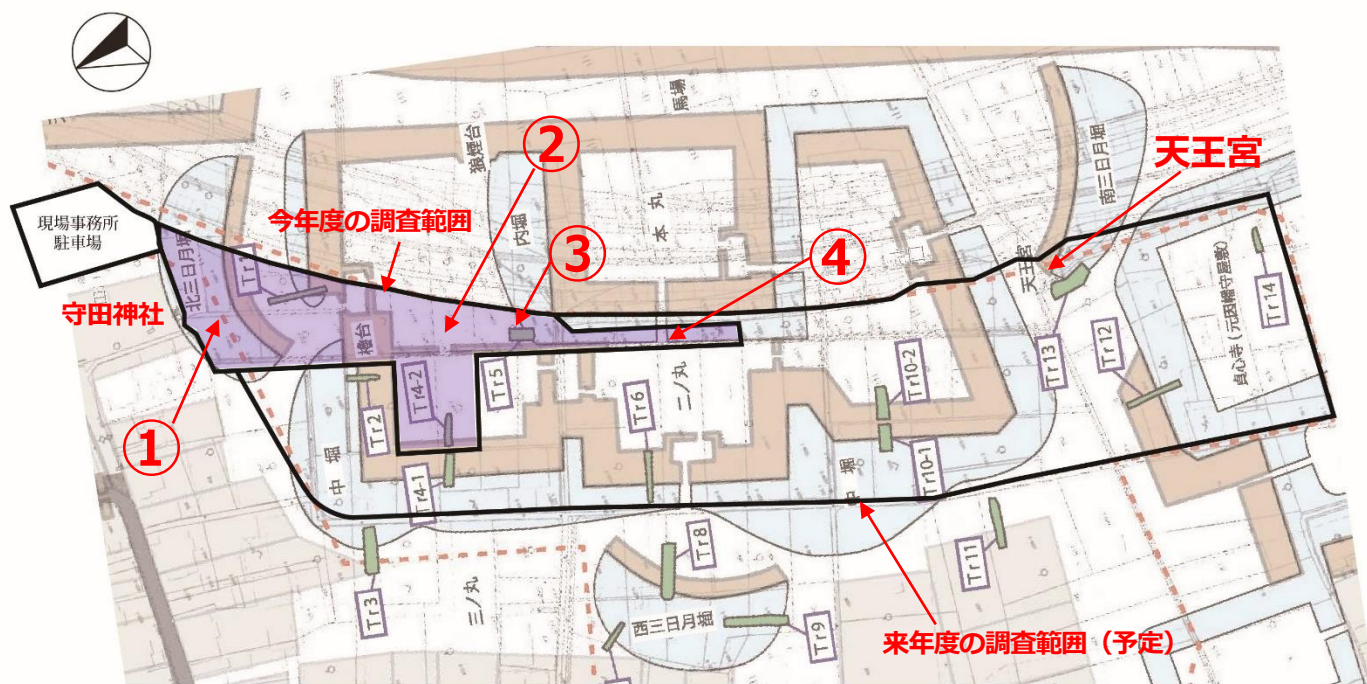
武田氏滅亡後は織田信長の支配下となり、その後は上杉景勝や豊臣秀吉の支配となりましたが、徳川家康による江戸幕府成立後は、実子の松平忠輝が治めています。忠輝改易後の元和2年（1616）に、佐久間勝之が初代藩主となって長沼藩が成立し、以後佐久間氏の居城となりました。5代将軍徳川綱吉の元禄元年（1688）、4代目藩主佐久間勝親のときに改易廃藩となり、その後幕府の直轄地となりました。長沼城も廃城となり、堀は埋め立てられ、度重なる洪水被害もあって、次第に正確な城の様子はわからなくなっていました。

しかし、そんな現況を憂えた地元有志による長沼歴史研究会の地道な活動により、新たな古文書などの発見や解説などが進められ、南北約650m、東西約500m、約34haという大規模な平城で、内堀・中堀・外堀と特徴的な三日月堀を三方に配する縄張りの復元案がまとまりました。そして昨年度、当事業に先立つ長野市教育委員会の埋蔵文化財予備調査で、推定された堀跡などが残存していることが確かめられました。

【みつかった施設や出土品】

下図での位置	施設名（推定）	調査の状況	主な出土品
①	北三日月堀	表土剥ぎ後、堀らしき痕跡が見えてきています。	今のところ、なし
②	二ノ丸	表土剥ぎ後、人力で検出やトレンチ調査をしたところ、焼土や炭が面的に広がっている部分が見つかり、火災を受けた可能性が考えられます。 また、鍛冶（鉄器加工）の痕跡も確認されています。	中世～近世：かわらけ（一括埋納か）、陶磁器、銭貨、金属製品（かんざしなど）、ふいご羽口、鉄滓、土錘（魚網用）、土壁（焼けた状態で大量出土）、動物骨（牛または馬ほか）
③	内堀	表土剥ぎ後、人力で検出したところ、堀跡と想定されるラインがみつかっています。	今のところ、なし
④	内堀	南側は人為的に埋め戻した土が厚く堆積しています。 北側は溝状の落ち込みが残っていて、その底部付近に明治時代頃に廃棄された陶磁器類が大量に出土しています。また、井戸跡（明治以降）も確認されています。	中世～近世：陶磁器、銭貨、金属製品 近代以降：陶磁器、金属製品、動物骨 井戸跡：中世の内耳土器（内側に吊るための把手がついた土鍋）

【長沼城跡の縄張り図（長沼歴史研究会作成）と調査区】



原図：長野市教育委員会文化財課 2020 「予備調査試掘トレンチ位置図『長沼城跡予備調査概要報告書』

0 100m



引き続き支援とご協力をお願いいたします。

埋文ナビゲーター
かがみちゃん

【今後の調査予定】 令和4年1～3月は、堀跡の調査(部分的に深く掘って、堀の形や埋まり方を調査します)や、現場事務所内で遺物洗浄などの整理作業を行います。なお、来年度も調査を継続する予定です。

R3 長沼城跡発掘調査情報 (1)

【現地公開配布資料】

長野県埋蔵文化財センター

事務所：026-293-5926

現場携帯：090-1504-0361

(担当者:柳澤・綿田・田中)

発行日：令和3年12月6日

主な参考文献：長沼歴史研究会 2014 『長沼城の研究～城跡の検証～』

長野県立歴史館 2016 「長沼城」『信濃国の城と城下町―発掘調査から謎を解く―』平成28年度冬季展 展示図録